

遊女の歴史を伝える碑

所在地：中川3-3-5 善應寺 ぜんのうじ



高さ2.4メートル



(右側面)
中央の「南無阿弥陀仏」の周りに、
遊女の戒名が多数刻まれている

遊女供養塔 ゆうじょくようとう

■ 善應寺と正憶院

善應寺は浄土宗で、天正11年(1583)創建と伝わります。
大正12年(1923)の関東大震災で被害を受けた浅草しやうそうの正憶院てんしやういんを昭和4年(1929)に合併して、寶積山正憶院善應寺と号すようになり、遊女供養塔も移転してきました。

正憶院は、吉原を創始した庄司甚右衛門しょうしじんえもんと縁が深く、
そのため遊女に関係した古文書などが残されています。



緑豊かな善應寺

■ 遊女供養塔

遊女供養塔は、正保2年(1645)3月吉祥日の記銘があり、側面に150余名の戒名が刻まれています。代々襲名された吉原の遊女「高尾太夫」(何代目かは不明)の名も刻まれていたといわれますが、関東大震災の火災によって石が傷められ、その後も風化が進み、現在は戒名を読み取ることが困難な状態となっています。